

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

TSUNOBUE

2025年5月1日

第457号



社会福祉法人

小羊学園

住 所 〒433-8105

静岡県浜松市中央区三方原町2709-12

電 話 053-584-3337 FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人 稲松 義人

印刷所 アド・アール株式会社



今号のMENU

1 P...

理事長巻頭言

2 P-3 P...

小羊学園研究発表会
優秀賞作品

4 P-5 P...

2025年度辞令交付式
新職員紹介
障がいのある人にやさしい外出スポット

6 P...

ほのぼのコンサート
リレートーク
幹部職員人事報告
支える会報告 他



卒園する子どもたちに「豊かな成長を願い」卒園証書が手渡されました

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにながっていき、わたしもその人にながっていけば、その人は豊かに実を結ぶ。」(ヨハネ15・5) これは3月にばびるすの卒園式で朗読した聖書の箇所です。聖書では、権力者たちに拘束されることを覚悟したイエスが弟子たちに最後に話されたことの一部です。これまでイエスが伝えなことを大切にしっかりと神にながって、イエスの働きを継承してほしいという願いが込められているように思います。私たちも、卒園する幼子たちが卒園した後もばびるすで過ごしたことを糧として、神さまに守られてますます豊かに成長してほしいという願いをもっています。私たちは限りある命を生きています。神さまからいただいた命の恵みを分かち合い、つながりの中で次の時代を生きる人たちに継承していかなければなりません。どんな小さな命も排除することなく大切にばびるすながら、成長する新しい命にそのバトンを託していくべきだと思うのです。最近の言葉でいうならば、サステイナブルでインクルーシブな社会を求めつつ、わたしたちの営みは継承されていくのだと思います。

稲松義人

2024年度 小羊学園研究発表会 優秀賞

人生、俺の思うままに生きたい

「Tさんの望む生活とは」

グループホームひまわり

【ケース概要】

Tさん 82歳 男性

グループホーム入居12年目

高血圧、血糖値が高め、ADLはほぼ自立、日中は生活介護施設へ通所しています。演歌、散歩、飴が好きで、髪は短いのが好きです。性格は温厚ですが、干渉されることが嫌いです。一人時間を好むため支援者が積極的に関わりにくい方ではありません。

研究対象として選んだ理由は、コロナ禍で管理的な生活が続いた影響もあり、無断外出や髪を自分で切ってしまう、飴をうっかり通所先で落とすなどの行動が見られ、Tさんの求めるものは何かを探り本人の望んでいる生活を、提供したいと思い取り上げました。

取り組みのねらいは、ライフストーリーを共有して、何を求めているか今ある課題を解決しながら、Tさんの望まれる生活を実現する事です。



【実践の過程と結果】

実践①

会議にて、質問内容を5つにまとめ、電話にて弟さんへライフストーリーインタビューを実行しました。質問1、「施設に入居前はどのような生活を送っていましたか？」

『障がい者雇用により、鉄工所や楽器製作工場に4年間勤めていました。きつい仕事でしたが、本人は楽しそうでした。退職後は、両親と3人でS町で生活していました。父が病気で亡くなり団地で母と二人暮らしになりました。その後、母が認知症になり老人施設に入所と同時に、Tさんも障害者支援施設に入所する事になりました』と伺いました。私

たちは、感情があまり動かない難しい人という印象でしたが、本当は忍耐強く弱みをみせない家族想いの人だとわかりました。

質問2、「御家族の皆さんとはどのような思い出がありますか？」

『両親は商売をしていたので忙しく外出などの思い出はありません。よく兄弟2人で浜名湖へ魚釣りに出掛けました』と伺いました。私たちはただ単に「魚釣りの好きな方」だと思っていました。兄弟の思い出が詰まった楽しみでした。

質問3、「二人でやっていた事、行っていた場所はありますか？」

『毎日一人でお城へ散歩に行ったり、百貨店へ行ってエレベーターやエスカレーターに乗っていたり、繁華街などをブラブラ歩いていました』と伺いました。

『他に、M町、K町、神社の露店などに自転車で行きました。1日自由に過ごしていましたが、昼食と夕食もその時間になると必ず家に帰ってきていました。今までトラブルが無く、困る事はありませんでした』と伺いました。

た』と伺いました。

82歳であっても健脚で、現在グループホーム2階で暮らし階段の上り下りも不自由なく過ごしているのは、約40年間にわたり、毎日10キロ程歩く生活を続けていたからだといわれました。

質問4、「好きな食べ物、好きな事はありますか？」

『うなぎが1番好きです。飴もせんべいも大好きです。好きな音楽は北島三郎、村田英雄、美空ひばり、フランク永井です。他にも沢山あります』と伺いました。

質問5 約束事をする時に効果的な事は？

約束事が有効か？

何も心配したことが無い為
↓
約束事はしたことが無い



質問5、「約束ごとをする時、効果的な事はありますか？」

『人に危害を与えることが無く、警察沙汰も無かったです。心配した

ことも無く約束はしたことがありません』と伺いました。

この質問の応えを聞いて私たちは、そもそも今まで約束をしてこなかった人に対して、「約束をする」ということが有効なのか?という疑問が出てきました。

実践②

個別外出は行きたい所や、欲しい物を聞きました。やはり「浜名湖」「うなぎ」とよくリクエストをされます。希望に沿った外出ができるよう計画をしました。しかし、全てを1度の外出で叶えることは困難なので、本人とお話をして優先順位を決めてもらい、楽しめるようにしています。最近の個別外出では、タクシー券を利用し商業施設に行きました。「都はるみのCDが欲しい」と言われ、本人の好みの買い物が出来ました。

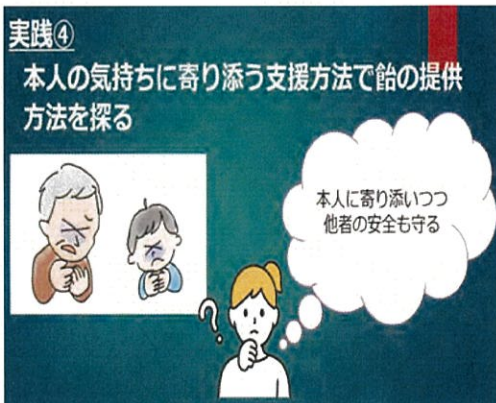
実践③

散髪は1カ月に1度行けるように計画しました。日程を本人に伝え、カレンダーで確認してもらいました。定期的に散髪の計画を立てる事で、自分で髪を切ってしまう事が無くなりました。店員さんへ「1ミリ」と伝えて、希望通りの散髪が来ています。

実践④

本人の気持ちに寄り添う飴の提供

方法を探りました。6月頃から通所先で飴をうっかり落してしまうという報告があり、他利用者が誤って口にしてしまう事が懸念されました。本人に寄り添いつつ他者の安全が守られる方法がないかと考えました。干渉される事が嫌いで、身体を触られたくないTさんに約束事として、飴を持って行かないように度々声掛けをしました。「わかったよ」と返答があっても効果がありませんでした。そこで次のような支援方法を決め実行しました。



今までは飴を希望するまま複数提供していましたが、食べずにポケットに入れていた事があったので、飴を1つとせんべい1つに決めて提供しました。本人の希望があれば、飴

の追加が出来るよう、声掛けを実施しました。

しかし、飴1つ、せんべい1つと決め提供しても、ポケットに入れて持ち歩くことはなくなりませんでした。8月には暑さで飴は溶け、紙のまま口に入れ食べられないことが分かり、居室に放置されている事が度々確認されました。そこで、ポケットに入れて持ち歩かないために、本人用のおやつ皿を用意してみてもどうか?と提案がありました。

個別外出でおやつ用のお皿を選んでもらい購入しました。お皿に飴1つとせんべい1つを個包装から出して提供する事で、通所先へ持つて行く事がなくなりました。

【考察】

今回の研究を通してライフストーリーを知り、理解を深める事により日常のコミュニケーションが取りやすくなり、会話が弾むようになりました。本人からも気持ちを伝えようという様子も伺えるようになりました。過度な干渉はされたくない、身体を触られたくない、という本人の自尊心と、今まで約束をしてこなかった事、忘れやすい年齢であることに配慮して支援員が共通支援をす

れば今ある課題を解決することが出来るとうわかりました。

日常会話でのコミュニケーションがいかに大切で、その為には自分の気持ちを上手に伝えられる支援員との信頼関係が重要だと考えます。今後は、本人の特性を理解したうえで、計画と準備等の手順を踏めば、支援員が変わっても希望をかなえることが出来ると分かりました。1つでも本人の希望が叶うように、移動支援サービスの利用も今後検討していきます。これについてはご家族の希望でもあります。これからもTさんの声に耳を傾け、望む生活を実現していきたいと思えます。

ご清聴ありがとうございました。

